



本日はよくお参り下さいました

10月となりました。全国的に台風が猛威をふるっていますが、被害にあわれた方は大丈夫でしょうか。先月9月29日には、氏子会役員参列のもと、正五九祭が行われました。台風が接近する中でのお祭りとなりましたが、無事執り行うことができました。今月は、伊勢の神宮で神嘗祭というお祭りがあります。祭器具が一新されることから、神宮のお正月とも言われる大きなお祭りです。ところで、神道の葬儀や慰霊のことも、祭りといえます。亡くなった方をお祭りする神事は年祭といって節目となる30年祭をもって「まつりあげ」とし、その後は神さまになると考えられています。祭りは、お祝いのときも、みたまなごめのときも神と人とを繋ぐのですね。今月も皆様のご多幸とご無事を心よりお祈り申し上げます。権禰宜 道子



10月

1日・15日 月次祭 (つきなみさい)
皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈ります。

8日 寒露 (かんろ) 晩夏から初秋にかけて野草に宿る冷たい露のことをさし、秋の深まりを思わせます。

17日 神宮神嘗祭 (じんぐうかんなめさい)
皇室と宮中の大祭でその年に収穫したお米で造った神酒と神饌を伊勢の神宮に奉るお祭です。祭主は昨年より黒田清子様がお務めになられています。

23日 霜降 (そうこう)
秋も末で霜が降りる頃という意味から霜降といえます。秋のもの寂しい風趣がかもされてきて、早朝などによっては霜が見られるようになります。

28日 第42回よこすかみこしパレード
今まで山車のみの参加でしたが今年は天皇陛下御在位30年を奉祝し当社の旧宮神輿も参加します。
10:30～横須賀中央大通りパレードスタート
11:20～米海軍基地クレメント通りパレードスタート
14:15～式典



旧宮神輿 10/28
みこし初参加です

天神さまの豆知識

「穢れ」と「祓い」の意味

神道には「穢れ」と対になる「祓い」の概念があります。「穢れ」とは「気(霊) 枯れ(生命力が枯れた状態)」をさすものです。神道には「常若(とこわか)」という言葉もあるほど、清らかで若々しい生命力をもつとも重んじます。人間は気枯れた(穢れた)ときに、さまざま間違いを犯し、その間違いの程度が大きくなると罪になります。神道では、罪を犯すことを好む人間はいないという考えに立ち、罪人は「気の枯れた」気の毒な人、とされました。そのため、日頃から穢れを近づけないように、清く明るく過ごすように努めたのです。穢れを清めることを「祓い」といいます。良心に恥じる行為が罪につながる穢れとなります。ですから神の心、自分の心に照らして、悪いことをしてはならないのです。いまでも、悪い人間を「きかないやつ」といい、悪事を「きかないこと」と呼ぶ言い回しが残っています。日本人は、法律的に

は罪にならなくても「きかないこと」をする「きかないやつ」を、たいそう嫌ってきました。

日本人のもつ「恥を知る心」はまわりからきたくない人間とみられること(恥をかくこと)を避けようとする生き方から生まれた心と言えるでしょう。参考文献 『日本人なら知っておきたい神道と神社』著者 武光誠 河出書房新社発行

今月の言葉

『道は近きにある』

生きていく上での原理・原則というもの、案外平凡で常識的であることが多い。人間の踏むべき「道」は、どこか高遠なところにあるように見えて、実は日常の身近なところにある。ところが、人は、この「道」をわざわざ「高遠なところに求めようとする。ことさらに難しいことをありがたがり、常識的なことを無視して枝葉末節に走ったりして、結局は実行できずに終わることもある。誰にでもできる大事なことは、たとえば朝「おはよう」と声をかける、そうした平凡で些細なことなのだ。参考文献『中国古典一日一話』守屋 洋著(株)笠書房発行